



井上けんじのもっといいまちへ 新しい視点と確かな実践力で 結果を出す (議会だより68号に合わせて)

平成22年4月23日
発行：井上健次
(毛呂山町議会議員)
〒350-0438
埼玉県入間郡毛呂山町西戸771-1
TEL 049(294)1789
事務所 049(294)2404
FAX 049(294)1764
E-mail farm-i@taupe.plala.or.jp
ホームページアドレス
http://www.inoue-kenji.com/

町民党で奮闘中!

一昨年のリーマンショックから100年来の不況が押し寄せ、その煽りを受けた政権交代から8ヶ月が過ぎようとしております。今も、政権交代前と変わらず日本丸という船は、「羅針盤が壊れたまま迷走航海の真只中」と言ったところでしょうか。

子ども手当で・高校授業料無償化・農家戸別補償等々、マニフェスト実現を成果のように訴える政府にしっかりとした財源は見つからず、鳩山首相の「4年間は消費税を上げない」の言葉とは裏腹に仙谷国家戦略担当相の消費税率引き上げについての発言は側近の閣僚の言葉としても耳を疑います。

特に仙谷氏は、消費税率引き上げを見送ってきた自民党政権に対して「糞(あつもの)に懲りてなますを吹いて・・・」のことが日本の財政を危機的な状況にした」と批判しているだけに、その言葉には「財源の捻出に限界がきた」ということがうかがえます。

日本の民主主義をより良くする切り札とされてきた「政権交代を可能にする二大政党制」ですが、お手下本とする英国で今、それが崩れようとしています。

日本でも民主・自民両党への信頼が揺らぎ第三極の政党が次々と産声を上げている中、かく言う私も無所属・無会派、町民党として「町民本意の町づくり」のため奮闘しております。

井上健次のプロフィール
1959年生まれ
毛呂山町議会議員2期
総務文教常任委員
議会だより編集委員長
埼玉西部環境保全組合議員
株式会社 井上農場 役員
(社)もろやま大地の会役員
経歴
毛呂山町PTA連合会長
川角中学校PTA会長2期
筑波大学付属坂戸高校PTA会長2期

平成22年度一般会計予算 89億2千万円

毛呂山町3月定例会議会は、3月2日より18日間の会期で行なわれ、平成22年度毛呂山町一般会計予算は89億2千万円で可決いたしました。

昨年の平成21年度当初予算82億6千7百万円と比較すると6億5千万円ほど増額となりましたが、これは子ども手当・児童手当の5億8千万円(国庫負担金)が最大の増額要因と言えるものです。

今年度より、指定管理者に移行した図書館・体育施設の管理費の数字に職員人件費など減額の状況が見られておりませんが、これは予算組みをする時点で職員数を減らす事ができないため、今後の補正予算の数字に現れてくるものです。

そのほか平成22年度の主な事業については4月20日配布の毛呂山町議会だより68号を見て頂くとお解かりになると思います。

平成21年度補正予算においても、政権交代前の麻生内閣による度重なる「緊急経済対策」と政権交代後の鳩山内閣による「地方からの要望が強い」と先送りにしてきた事業に予算を付ける政策によって、毛呂山町でも補正を重ねてこの3月議会では第7号補正となり、当初予算より7億7千万円の増額となりました。

この第7号補正は年度末ということもあり、予算を次年度へ繰り越すため繰越明許補正として事業が執行されます。

主なものは、泉野小学校・川角中学校の校舎耐震補強、教育施設地デジ配線事業、農道・林道改良工事、防災倉庫建設事業など20項目に及ぶものとなりました。この紙面に掲載した内容については井上けんじのHP「私の視点」でさらに詳しく書き込みます。

民主党政権でも認可!

武州長瀬駅北口野久保線事業



完成した長瀬駅北口ロータリー付近

都市計画道路でもある武州長瀬駅北口野久保線事業は、平成22年度から国庫補助金が変わり「町づくり交付金」として4億3千万円の予算となりました。

これは、都市再生整備計画として武州長瀬駅北口周辺地区が埼玉県認可を経て(国土交通省)にも認められたということですが、主なものは、

- 武州長瀬駅野久保線整備(駅広・本線)
- 前久保中央公園連絡道路整備
- 現県道までの延伸道路整備
- 武州長瀬駅北口自転車駐輪場整備
- 武州長瀬駅周辺情報版整備
- 武州長瀬駅橋上駅舎化整備

であり、駅周辺の一体的な整備計画として平成26年までの5年間で進めるよう国の指導によるものです。

民主党の政策の一つに八場ダムの中止をシンボルにした「コンクリートから人へ」を掲げて、ダムは作らない、無駄な道路は造らない等々、公共事業を頼りとする土建国家からの脱却がありました。

その上で、今年度武州長瀬駅北口周辺整備の事業認可は、野久保線が無駄な道路ではなく、武州長瀬駅と主要道路・県道39号が結節さ

れる事によって広域ネットワークが確立され地域の活性化が図れる」という国・県の判断であり、まさにコンクリートではなく「人へ」の利便性・アクセス性・空間の創出を目指すものです。そこには当然国による費用対効果・費用対便益検証の過程を経て進んだものと理解するべきでしょう。

もう一つ、大きなニュースが・・・ 3月定例会議会閉会後の3月29日、毛呂山町を管轄する代議士でもある民主党衆議院議員の五十嵐文彦事務所より、武州長瀬駅北口周辺地区整備事業に国からの予算1億7千2百万円の割当が決定したというFAXが毛呂山町に届きました(左参照)。

平成22年度予算割当調査				FAX 送付状		2010年 3月 29日
事業名	地区(箇所)	新築・継続	事業費	備考	内容	備考
【国土交通省】						
社会資本整備総合交付金					武州長瀬駅 北口野久保線	武州長瀬駅 北口野久保線
●身近な生活通道の安心・安全を確保する市町村道の整備	毛呂山町 野久保線 37市町	新築	(国費)1,061,611		野久保線 地下鉄2号線との接続を確保し、安全を確保します。	野久保線 地下鉄2号線との接続を確保し、安全を確保します。
●毛呂山・楢山・鳩山公共下水道		継続	(国費)61,500		いつも大変お世話になっております。	
●武州長瀬駅北口周辺地区都市再生整備事業		継続	(国費)172,000		平成22年度予算割当が決定しましたので、ご連絡致します。	
●植栽住宅支援	毛呂山町 野久保線 19市町	継続	(国費)70,015		お返しお願ひ申し上げます。	

“いち早く毛呂山町へ”と五十嵐事務所からの誠意あふれる交付金の内示

井上けんじのビジョン

「農家戸別補償制度で米価はさらに崩れる」

民主党のマニフェストは前政権の麻生内閣を上回る至上最大のバラマキ政策である。

私は、農家戸別補償制度は日本の米価を引き下げ、米に関係する経済そのもののバランスを崩す政策だと言いたい。

今回の農家戸別補償制度は、大きく分けると2つの柱である。

1つは、自給率向上事業、もう1つは、米のモルル事業(主食用米の生産数量目標に従って生産する販売農家に対して、作付面積10アール当たり1万5千円を定額交付する)です。

しかし、政府は減反を厳しくしたわけでもなく、従来通りで更に、小遣いが舞い込むような施策は、「縁故米」(親戚や知人などに回る米などが予想以上に増え、需給バランスを崩し、米価格の低下につながります)。

ミニマムアクセス米(MAM)の輸入は今年度も例年と同じように77万トン!

民主党の赤松農相は、WTOの協定上規定されているわけでもない」としながら「国際約束論」を持ち出し、MAMの全量輸入を続ける姿勢をとっています。

農家にお金を配るのではなく、まず国の内需拡大と経済バランスを整えるのが先決です。

今年の秋の生産者米価は、必ず下落し、米農家の溜息が今から聞こえてきそうです。

貿易摩擦の代償政策 MAM輸入に断固反対しましょう